

### 日本は29ヶ国中27位＝女性の働きやすさランキング

3月8日の「国際女性デー」に際し、英経済紙「エコノミスト」が発表した女性の働きやすさランキングによると、日本は経済協力開発機構(OECD)に加盟する主要29ヶ国中27位でした。男女の労働参加率や給与の差、育児休暇のとりやすさなど10の指標に基づき分析しています。日本は企業の管理職に占める女性の割合が14.6%(OECD平均は34.2%)と低かったほか、国会議員(衆院)の女性比率も10.3%(同33.9%)にとどまっています。

#### 【クイズ①】

日本の一般労働者の賃金について  
男性を100円とすると、女性は何円？

厚生労働省・賃金構造基本統計調査によると、女性一般労働者の平均所定給与額は、2023年で、男性一般労働者を100とした場合、74.8となっています。要因としては、男性に比べて管理職が少なく、出産や育児などで勤続年数が短い傾向があること等があげられています。この賃金格差は職場の働きやすさ、昇進昇格、教育機会などに関する男女の格差が様々な形で絡み合った結果といえます。

74.8円

#### 【女性活躍推進法】

女性の職業生活における活躍の推進に関するこの法律は、2016年に施行され、2020年と2022年に改正されています。この法律の目的は、女性の優遇ではなく、社会が抱える男女間の不平等を改善することです。男女間の不平等を改善するには、女性が仕事に参画しやすくとともに、男性が家事や育児介護などへ積極的に関われる環境が求められています。具体的な取り組みなど、詳しくは右のQRコードで検索してみてください。



#### 【クイズ②】

日本人女性の睡眠は世界一短いつて  
ホント？

日本人の睡眠時間が世界の国々と比較して短いということはよく知られています。2020年のOECD(経済協力開発機構)加盟国の一日の平均睡眠時間の平均は507.6分であるのに対し、日本は442分であったと報告されており、加盟国中、最下位となっています。さらに、男性より女性の睡眠時間が短く、「日本人女性は世界で最も睡眠がとれていない」といえます。家事や育児、介護などの負担が大きいようです。

ホント

#### ◆日出町人権講座のお知らせ◆

- ①日時：6月29日(土) 10:00~11:30  
講師 船尾 修 さん  
(杵築市山香町在住 写真家)  
内容 「多文化共生を考える」  
場所 日出町中央公民館  
※町立図書館で関連書籍を展示する予定です。
- ②日時：7月20日(土) 10:00~11:30  
講師 佐藤 祐親さん 他  
《ソニー太陽(株)》  
内容 「障がいがあっても、仕事に障がいはありえない」  
場所 日出町中央公民館  
※たくさんの方のご参加お待ちしております。

私は、女性の人権について調べました。女性差別とは、女性であることを理由に不当な扱いを受けたり、差別を受けたりすることを言います。以前は国際結婚をすると妻は夫の国籍になることを強制させられていたり、本人の意思を無視して、十代前半で親や家族が決めた相手と勝手に結婚させられたりといった女性への偏見の元、差別が通例として行われていた時代があったことを知りました。近年では男女という性別の違いによる差別だけでなく、すべての人が平等でなければならぬという考え方が浸透してきています。しかし、今もなお家事や育児は女性の仕事であるといった考え方を持つ人も多く、女性に対する差別や偏見は残っています。

今回私は調べていくなかで、「ジェンダー」という言葉を知りました。ジェンダーとは、社会的・文化的に形成される性別、つまり特定の社会で共有されている価値観をもとに、男女の役割などで区別される性別のことです。例えば、外で働いている家族を養うのは男性の役割、子どもを産み、育てるのが女性の役割といった考え方はジェンダー不平等にあたります。「このような社会的な性差は、地域の人々の価値観、伝統、慣習などによって無意識のうちに規定されていることが多く、社会や会社などの組織でもこのような考え方の影響をうけていると知りました。

この事実から、私は自分の家庭や身近な人たちについて考えてみました。私の父は毎日が社で働きながらも、家にいる時間は、母と一緒に家事をしています。そして小なことから、母とおなじように、わたしや弟、妹のお世話をしてくれています。私は今まで、それが当たり前だと思っていましたが、今回調べてみて、今の世の中では、まだ「家事は女性の仕事だ」と問題になっていて、父の姿は当たり前ではない事を知りました。

祖母はよく、私の母は幸せ者だと言っています。祖母の時代は、男性が子育てを手伝ったり、台所に立つ事はほとんどなかったらしく、祖母は最初、私の父が「家事をさせられている」、「子

育てを手伝わされている」、「かわいそう」と思っていたそうです。でも、父の姿を長年見てきて、「なぜかやっているのにはなへへ」と思っている「姿に時代の変化を感じ、私の母のことを幸せ者だなんて思いつつになったそうです。

そして、私の知り合いには、今年、奥さんの三人目の出産後、二月月の育休を取得した方がいます。まわりは二月月の育休に驚いたそうですが、これからの若い後輩たちが、育休をもっと取得しやすくなるように、自らが進んで動いたそうです。この二月月の育休で旦那さんは、今まで奥さんに任せていた掃除や洗濯、買い物など、家事がひと通りできるようになり、育休後、会社に復帰してからも、進んで協力してくれるそうです。

世の中はまだ、「家事は女性の仕事だ」という考えがあるなか、私のまわりには、このような時代の変化もあります。

しかし、今の世の中はまだ、子どもが生まれると、男性は仕事を続けられるのに、女性は仕事をやめざるをえなかったり、時間を制限されたりします。でも、女性にも、自由に働きたい人だっていると思う、結婚、出産後の女性の働き方について意識してみたいところ、身近に「すごく魅力的な場所がありました。それは、私が通っている絵画教室です。数名いらっしゃる先生方のなかに、小な子どもを連れて出勤されている先生がいます。絵画教室では、ベビーシッターをやるとい、先生方の行事中、子どものお世話をしてくれまます。もちろん、保育園にあずけるなどの方法もありますが、一緒に出勤でき、身近で子どもの成長を見ながら働けるのは、とても素敵なことだと思いました。このような環境は、結婚や出産後も、外で働きたい女性にとって、すごく強い場所だと思いました。

私は、これからの時代、男性が家で家事や子育てをし、女性が外で働く選択肢があってもいいと思います。今はまだ、世の中がそれを普通じゃないと言っている人もいかもしれませんが、それぞれの夫婦や家庭で自由に選択でき、認められる世の中になってほしいなと思います。そして将来、私が大人になった時には、女性の人権が尊重され、「男性の仕事」「女性の仕事」という偏見による家庭や職場での差別がなくなり、男性でも女性でも、どんな性別でも自由に選択し、自由に生きられるような、温かく、よりよい社会になっていくことを願っています。